

■今月の特選句

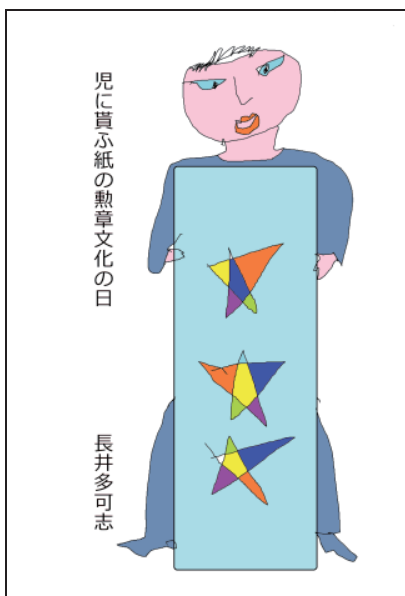
2024年12月



かたくなに守る手書きや文化の日

白井道義

書家でさえパソコンで手紙を書く時代。だから手書きにこだわる人には文化の継承という使命感がある。「手書き文字保存会」を設立しようか。



児に貰ふ紙の勲章文化の日

長井多可志

文化の日には永年勤続などの方々が勲章を受ける。吾子からもらう勲章は紙といえども重みが違うんだよなあ。こちらの方が値打ちものだね。



飛ぶたびにスクワットしてバツかな

相原共良

飛蝗も飛ぶ直前は力をためて一瞬しゃがみ込む。それをスクワットしているのだと端的に表現して面白い句になった。気付きの一句として秀作。



この焚火果たして違法か合法か

千守英徳

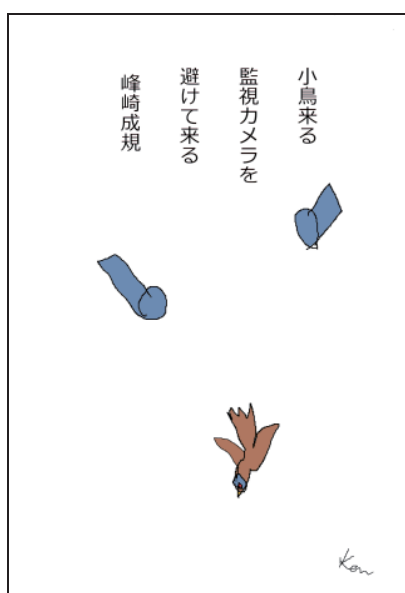
廃棄物を燃やす行為を「野焼き」と言い、平成十三年に法律で禁止された。農林業や伝統行事などは例外だが、「焚火文化保存会」も要るね。



はばかりの外にいつもの金木犀

土屋泰山

トイレは、かつて「厠」や「はばかり」と言われ、近くに金木犀が植えられた。芳香をして悪臭を消す役割を負わされたあげく、便所花と呼ばれた。



小鳥来る監視カメラを避けて来る

峰崎成規

監視カメラが増えた。犯罪防止に役立っているのだろうが、それは疑われる社会ということでもある。不審者扱いに不愉快なのは小鳥も同じ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

職業欄に自給自足と文化の日

・・・魚釣りして大根植ゑて

柳村光寛

A I の音声案内そぞろ寒

・・・癖のある声懐かしくさせ

鈴鹿洋子

キャッシュレスでは気分が出ないお年玉

・・・チャリンチャリンと口で言ふのよ

上山美穂

「ツキヨタケ」名前はきれいな毒キノコ

・・・色も旨さう椎茸に似て

沖枇杷夫

どんぐり入れるポケットが小さすぎる

・・・どんぐり取り過ぎただけのこと

鈴木和枝

七五三着物着替えて焼肉屋

・・・花より団子着物より肉

井野ひろみ

鼻歌が出る鰯雲の大漁に

・・・おなか一杯食べられますね

小笠原満喜恵

さまざまの句座を旅して桃青忌

・・・行く先々で歓待されたか

岡本やすし

深呼吸できず牡鹿と目の合ひて

・・・牡鹿はなんと思っただらう

加藤潤子

選手より多い役員体育祭

・・・少子化ゆえの現象なるや

木村 浩

船漕げば夢が広がる小春かな

・・・こつくりこつくりうつらうつら

高田敏男

残高のゼロに等しき木守柿

・・・残高わずかながらもお値打ち

田中やすあき

団栗や時はまあく過ぎてゆく

・・・思ひ出ころんとてのひらにある

谷本 宴

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

真つ先にお焦げを食べる茸飯

紅葉は稔りの秋の色ならむ

寒鳥生きねばならぬとごみ漁る

裸木に電飾の花クリスマス

置き炬燵顔で笑って足で蹴り

真夜中のもつてのほかの佳かりけり

唯一無二のバーディーチャンス赤とんぼ

顔ばかりの選挙ポスターおけら鳴く

さはやかやされど開かぬ瓶の蓋

松茸を嗅ぐや兎の鼻となり

むさぼれば顔べちゃべちゃに青みかん

紅や黄のべべ着て舞うや秋木立

不易流行たんすのこやしで衣更え

紅葉狩徂徠豆腐で酒を酌む

ケルン積む賽の河原の如く積む

十三夜十三の夜を口遊び

吊し柿連ね青空キャンバスに

四方ビルの夜空の四角冬の星

ひととせの短さ語る除夜の鐘

風吹けば書割揺る村芝居

優先席目差して乗車冬の朝

ハロウィン純喫茶の窓の外

朝寒のコーヒーホットに変えようか

冬うらら縄文人のネックレス

冴ゆる夜の怖怖めくる「へび少女」

人生の足音消ゆる霜の夜

松山城の天守のそびゆ秋の空

縁側にまるめる背中日向ぼこ

アサギマダラを虜（とりこ）にしたる藤袴

相原共良

相原共良

青木輝子

青木輝子

青木輝子

赤瀬川至安

赤瀬川至安

赤瀬川至安

井口夏子

井口夏子

井口夏子

池田亮二

池田亮二

伊藤浩睦

伊藤浩睦

伊藤浩睦

稲葉純子

稲葉純子

稲葉純子

井野ひろみ

井野ひろみ

上山美穂

上山美穂

卯之町空

卯之町空

卯之町空

梅野光子

梅野光子

梅野光子

マトリョーシカの笑み融けゆくや冬日和
暴言の裏にも情け年の暮
「アナと雪の女王」原題は「FROZEN」
のどびこにバーガー見せて文化の日
改札を出でて別々秋の風
秋マスクもいつのまにやらアクセサリー
道が陰しい紅葉の天狗岳
赤とんぼすぐ目の前を悠々と
ぼちぼちがわが師のをしへー茶の忌
飛火野は大混雑の小六月
スポーツの日三日続いたダイエット
神無月神は出稼ぎ出雲まで
妹の竹馬先にうまくなり
この中にさつま蒨あり落葉焚
赤リンゴ昔は元気に丸かじり
お隣とお隣つなぐ香金木犀
カラス帰る秋の夕暮れ誰が待つ
絨毯は飛ばぬはずなり妻乗れど
初漁の人は老いしも魚若し
体育祭得点よりも弁当だ
泡立草黄粉もりもり花粉盛る
一郷の黄金の波よ泡立草
コスモスの花びらソーラーパネルめく
冬来たかFRANK ZAPPAの変拍子
行乞記を家にこもりて読む霜夜
雪ん子のごとき重ね着三千里
けんかみこしを隠忍自重に秋の雨
秋の雨みこしも子どもも合羽着て
どのビルも赤く染めゆく秋夕焼
ポイ捨ての吾を睨むや烏瓜
天高し猿山の猿静かなり
三日目のおでんグツグツ言うてをり

遠藤真太郎
遠藤真太郎
遠藤真太郎
大林和代
大林和代
大林和代
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
岡本やすし
岡本やすし
沖枇杷夫
沖枇杷夫
加藤潤子
加藤潤子
門屋 定
門屋 定
門屋 定
北熊紀生
北熊紀生
木村 浩
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
くるまや松五郎
くるまや松五郎
くるまや松五郎
黒田恵美子
黒田恵美子
黒田恵美子
桑田愛子
桑田愛子
桑田愛子

その紅に白も寄り添ひ曼珠沙華

赤まんま耕作放棄地の主人公

漁港へと鰯雲の大軍団

禪も衣装の一つ秋祭

割礼を終えし少年獵期来る

芒原や自慢の剣術千葉仕込み

カメラで舐める尾瀬沼の草紅葉

敷き詰めるコスモス娘の笑ひぷり

脱がされるマネキン娘秋モード

鳥渡る補習授業に居眠りし

赤い羽根胸に堂々告白す

色紙と団栗交換十個ずつ

どぼどぼと古女房が酌む新酒

彼岸花の群生遅れた訳話さない

ニュース聴こえない所で眉を引く

四角さん八角さんや秋祭り

祭旗建てにいそいそ夫は留守

満月を観むと夜中にそろり起き

勤労日ごろ寝でテレビ犬猫も

職安も今日は休みよ勤労日

二度見して野良猫逃ぐるいわし雲

車まで目と鼻の先秋の雷

晩秋の傘よ浮世の仄暗き

貼り付いてカマキリ窓を占有す

何よりも先に無花果買ひ求め

ひやとひのほろ酔ひかげんの秋の暮

振つてみる銚子の残り初時雨

隙間風隣の墓はお引越し

あの人もこの人もぬぬ秋深し

秘湯にもインバウンドとか秋紅葉

スーパーにジビエを卸す獵夫かな

神の旅地鎮の度に中座せる

桜井美千

桜井美千

桜井美千

敷島鐵嶺

敷島鐵嶺

敷島鐵嶺

壽命秀次

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

鈴木和枝

鈴木和枝

高須賀溪山

高須賀溪山

高須賀溪山

高田敏男

高田敏男

田代輔八

田代輔八

田代輔八

田中 勇

田中 勇

田中 勇

田中やすあき

田中やすあき

谷本 宴

谷本 宴

千守英徳

千守英徳

満月の中に黒雲パイナップルのような
 月明も心霊スポットも似寄り
 開花日を忘れただけと彼岸花
 秋日和節子の口調を真似てみる
 出世した秋刀魚の煙が目にしみる
 こがらしの吹けば尖りて杉の枝
 マヅルカを弾んで弾けば木枯らしに
 貴婦人の名前もやがて冬の薔薇
 天の川口マンス詐欺のガサ入る
 ショーヘイは俺の後輩おでん酒
 ドジョウ対ナマズの選挙秋きたる
 ほろ酔うて貰ひ煙草や神の留守
 生きるとは寝るといふこと炬燵猫
 皿が峰の肩に重たい冬の雲
 半袖で立冬過ぎし異常気象
 孫来ると鍋に残るは芋と汁
 漱石の気分で歩く月の下
 霜月や月の地表は熱きかも
 山裾を芒で飾り紅葉山
 モジリアニ首を竦（すく）めし夜寒かな
 数へ日を月月火火水木金
 反骨をその眼光に尾白鷺
 シャイ過ぎて今年の立冬気付かれず
 コロナ明けマスクは季語権取り戻し
 熱燗の出現気になるビールかな
 柚子湯出る「ごちそうさま」と声かけて
 庇貸し母屋を取られ大芭蕉
 有りて当然無くて慌てる大根かな
 粘りと腰これぞ日本の自然薯ぞ
 背伸びして大白菜に刃を立つる
 べつたら漬コンクリートに顔打つて

月城花風
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 百目鬼強
 百目鬼強
 百目鬼強
 永井流運
 永井流運
 永井流運
 長井多可志
 長井多可志
 長井知則
 長井知則
 長井知則
 長尾七馬
 長尾七馬
 長尾七馬
 西野周次
 西野周次
 西野周次
 花岡直樹
 花岡直樹
 花岡直樹
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 久松久子
 久松久子
 久松久子

出かけるを待つていたかに初時雨

冬耕の畝動脈のごと太ぶとと

大根炊く今日一日のあれやこれ

秋の声褌ぎ褌ぎと恨み節

新米も値上げラッシュの後を追う

月明かり頼りの足の千鳥なる

忘れたき事は山程年忘

着ぶくれて岩合光昭猫探す

冬至の湯寄り来る柚子はきつと吾子

そぞろ寒よりも寒くて夫婦仲

散骨もいいな秋晴のクルージング

道の駅立ち寄る度に買う新米

再開の握手に火花冬旱

オリオンは粋なベルトで夜遊びに

警官の人形の隣に捨案山子

身にぞ入む財布にいつも津田梅子

センターは犬キャッチャーは鉦叩

鬼の子の妻をめとれど一人部屋

落鮎の赤の入墨くねらせる

百舌高音天下取ったとのたまへり

大きさは小指で測りいわし雲

ばか力出し団栗爆ぜるとき

うろこ雲されば背骨はこの辺り

ふかし蕎麦べつつ代用食語る

ヘルスメータは正直者よ豊の秋

秋ですね深呼吸より新呼吸

残り香で子に気づかれる夜食かな

焼芋ですぐに機嫌の直る人

蜜柑くる定期購入したように

人生の旬やアルバムの運動会

仲裁の風見鶏めくおでん酒

おでん酒国の重荷を背負ふ論

日根野聖子

日根野聖子

日根野聖子

細川岩男

細川岩男

細川岩男

ほりもとちか

ほりもとちか

ほりもとちか

南とんぼ

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

棕本望生

棕本望生

棕本望生

村松道夫

村松道夫

村松道夫

森岡香代子

森岡香代子

森岡香代子

八木 健

八木 健

八木 健

八塚一青

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

柳 紅生

午後六時一斉ネオンの虫時雨

我もまたすりきれ束子すがれ虫

金木犀の香りのネイルのお嬢さん

秋の古都まさにオーバーツーリズム

飛蝗肥ゆ残暑厳しき折なれど

秋の陽は猛暑と言はれ詫びており

食欲の秋に敵対ダイエット

終活に翼のほしい秋日和

里芋や地中生まれの孫を連れ

真夏日におせち料理の予約表

松茸は松茸素性は知らねども

朝寒の吾を毛布が丸め込む

色褪せていてもつつぱり彼岸花

お神輿に少女飛び乗り秋祭

いぼむしり窓に濁点打つやうに

文字の癖似ていて親子文化の日

若き秋音符が跳ねているやうな

台風来取りに戻るは位牌など

「はだしのゲン」受賞の知らせ届く秋

柳村光寛

柳村光寛

山内 更

山内 更

山下正純

山下正純

山下正純

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉川正紀子

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子